英文法 L01 第 34 講 stop・remember・try などの意味差

学習目標

stop・remember・forget・try の後ろに続く動名詞と to 不定詞の意味の違いを理解し、文脈に合う形を判断することができる。

1. 動詞の後ろの形によって意味が変わる

動名詞は動詞の-ing 形で、to 不定詞は to＋動詞の原形である。

動詞の中には、**どちらの形も使える一方で、後ろの形によって意味が変わるもの**がある。

代表的なのが、stop・remember・forget・try の 4 語だ。

これらの動詞では、後ろに置く形だけでなく、行為が実際に起きたのか、何をしようとしているのか、どの行為を中断したのかを考える必要がある。

2. stop：やめる動作と中断する目的

定義

stop doing：〜するのをやめる

stop の後ろに動名詞を置くと、その動名詞が表す動作をやめる意味になる。

stop to do：〜するために立ち止まる・今していることを中断する

stop の後ろに目的を表す to 不定詞を置くと、別の動作をするために、それまでの活動を中断する意味になる。

次の 2 文を比べよう。

Pair 1

He stopped walking.

彼は歩くのをやめた。

Pair 2

He stopped to drink water.

彼は水を飲むために立ち止まった。

最初の文では、walking（歩くこと）が stop の対象である。つまり、やめた動作そのものが「歩くこと」だ。

一方、2 つ目の文では、歩くなどの活動を中断した目的が to drink water（水を飲むこと）である。水を飲むのをやめたのではなく、水を飲むために立ち止まったという意味になる。

©ミライコーチング

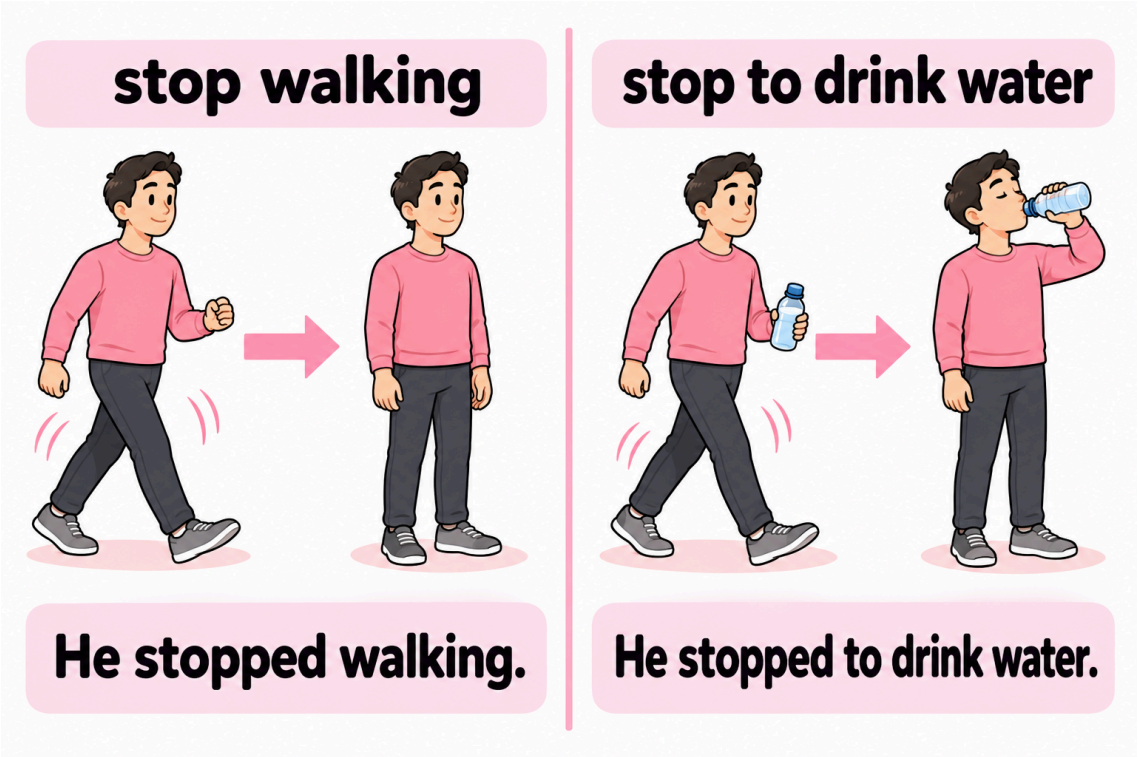


図 1　やめる動作と、立ち止まる目的

図の左側に示す stop walking は「歩くのをやめる」という意味で、He stopped walking. は歩いていた人が歩行をやめる場面を表す。右側の stop to drink water は「水を飲むために立ち止まる」という意味で、He stopped to drink water. は歩行を中断し、水を飲む場面を表す。

ポイント

stop doing では、動名詞が「やめる動作」を表す。

stop to do では、to 不定詞が「中断する目的」を表す。

stop to do の to 不定詞は目的を表す副詞用法であり、stop の目的語ではない。

3. remember・forget：行為と記憶の前後関係

remember は「覚えている・忘れずに～する」、forget は「忘れる」を表す動詞だ。

この 2 語では、**行為がすでに起きたことなのか、これから実行する必要があることなのか**を区別する。

remember doing と remember to do

定義

remember doing：～したことを覚えている

すでに行ったことが記憶に残っているという意味になる。

remember to do：忘れずに～する

する必要があることを忘れず、実際に行うという意味になる。

Pair 1

I remember meeting Anna at the station.

私は駅でアンナに会ったことを覚えている。

Pair 2

Please remember to bring your ticket.

チケットを忘れずに持ってきてください。

remember meeting では、「アンナに会う」という出来事が先にあり、その出来事を覚えている。

remember to bring では、「チケットを持ってくる」という必要な行為を忘れないように求めている。

remember doing は過去の経験の記憶に注目する。一方、remember to do は必要な行為を忘れずに実行することに注目する。

forget doing と forget to do

定義

forget doing：〜したことを忘れる

実際に行ったことの記憶がなくなる、またはその行為を覚えていないという意味になる。

forget to do：〜するのを忘れる

必要な行為を忘れ、実行しないという意味になる。

Pair 1

He forgot locking the door.

彼はドアに鍵をかけたことを忘れてしまった。

Pair 2

She forgot to lock the door.

彼女はドアに鍵をかけ忘れた。

最初の文では、彼は実際に鍵をかけたが、そのことを忘れている。

2 つ目の文では、彼女は鍵をかけること自体を忘れ、実行しなかった。

同じ forget でも、行為が起きたかどうかが異なる。

また、forget doing は否定表現と組み合わせて、強く印象に残った経験を表すこともある。

Pair 1

I will never forget seeing that rainbow.

私はあの虹を見たことを決して忘れない。

never forget doing は「〜したことを決して忘れない」という意味だ。虹を見たという経験がすでにあり、その記憶が残り続けることを表している。

ポイント

remember doing・forget doing では、記憶の対象となる行為がすでに起きている。

remember to do・forget to do では、必要な行為を忘れずに実行したか、忘れて実行しなかったかが問題になる。

「動名詞は過去、to 不定詞は未来」とだけ覚えるのではなく、行為と記憶の関係を確認することが大切だ。

4. try：方法を試すか、実現しようと努力するか

try は「試す・努力する」という意味の動詞だ。

後ろに動名詞を置くか、to 不定詞を置くかによって、行為の捉え方が変わる。

定義

try doing：試しに〜してみる

ある行為を方法として実際に試す意味になる。

try to do：〜しようと努力する

ある行為を実現しようと努力する、または試みる意味になる。

Pair 1

Try adding a little sugar.

砂糖を少し加えてみて。

Pair 2

He tried to lift the box.

彼はその箱を持ち上げようとした。

Try adding a little sugar. では、砂糖を加えることが一つの方法として提案されている。

He tried to lift the box. では、箱を持ち上げることを実現しようとした点に注目している。この文だけでは、実際に持ち上げられたかどうかは分からない。

注意

try to do には「努力したが失敗した」という意味が必ず含まれるわけではない。成功した場合にも使える。

また、try doing は行為を方法として試すことを表すが、その方法に効果があったことまでは保証しない。

次の文でも、この違いを確認できる。

Pair 1

I tried to lift the box, and I succeeded.

私はその箱を持ち上げようとし、成功した。

Pair 2

She tried adding pepper, but the soup still tasted dull.

彼女はコショウを加えてみたが、スープの味は相変わらず物足りなかった。
1 つ目は、努力した結果、成功した例だ。

2 つ目は、方法を実際に試したものの、期待した効果が得られなかった例だ。dull はここでは「味が物足りない」という意味で使われている。

5. 4 つの動詞の基本意味の比較

動詞	後ろの形	基本的な意味	判断の手がかり
stop	doing	～するのをやめる	その動作を中止する
stop	to do	～するために中断する	別の動作をする目的
remember	doing	～したことを覚えている	すでに行ったことの記憶
remember	to do	忘れずに～する	必要な行為を実行する
forget	doing	～したことを忘れる	実際に行ったことの記憶がない
forget	to do	～するのを忘れる	必要な行為を実行しない
try	doing	試しに～してみる	方法として実際に試す
try	to do	～しようと努力する	実現を目指して試みる

ポイント

後ろの形を決める前に、次の点を確認する。

1. stop：何をやめたのか。それとも、何かをするために中断したのか。
2. remember・forget：行為はすでに起きたのか。必要な行為を忘れずに実行したか。
3. try：方法として試したのか。それとも、実現しようと努力したのか。

文脈がなければ両方の形が成り立つ場合もあるため、語形だけで一つに決めない。

6. 例題

1

次の状況に合うように、空所に入る最も適切なものを選べ。

Yuna used to bite her nails. Now she never does.

She stopped (　　) her nails last month.

A. to bite

B. bite

C. biting

D. bitten

解答・解説

正解：C

Pair 1

Yuna used to bite her nails. Now she never does. She stopped biting her nails last month.

ユナは以前、爪をかむ癖があった。今はまったくかまない。彼女は先月、爪をかむ癖をやめた。

判断のポイント

used to bite her nails は「以前は爪をかんでいた」という意味だ。さらに、Now she never does. から、現在はその動作をしていないことが分かる。

つまり、爪をかむ動作そのものをやめた状況なので、stop doing を使う。

A. to bite：stop to bite なら「爪をかむために別の活動を中断した」という意味になる。癖をやめたという文脈に合わない。

B. bite：この意味の stop の直後に動詞の原形をそのまま置くことはできない。

C. biting：正しい。爪をかむ動作をやめたことを表す。

D. bitten：bite の過去分詞であり、ここで stop の後ろに直接置く形として適切ではない。

©ミライコーチング

2

次の状況に合うように、空所に入る最も適切なものを選べ。

状況：過去に閉めた経験ではなく、これから必要な行為を思い出して実行した場面。

The window was open before bed.

He remembered (　　) it and then did so.

A. to close

B. closing

C. close

D. closed

解答・解説

正解：A

Pair 1

The window was open before bed. He remembered to close it and then did so.

寝る前、窓は開いていた。彼は窓を閉める必要があることを思い出し、その後、実際に閉めた。

判断のポイント

窓はまだ開いており、and then did so によって、その後に窓を閉めたことが示されている。did so はここでは「その動作を実際に行った」という意味だ。

閉めた経験を思い出したのではなく、閉める必要があることを思い出して実行したので、remember to do を選ぶ。

A. to close：正しい。閉めることを忘れず、その後に実行したことを表す。

B. closing：remember closing は「閉めたことを覚えている」という意味だ。開いている窓をこれから閉めるという流れに合わない。

C. close：remember の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. closed：過去形・過去分詞の closed をそのまま remember の後ろに置いても、この意味を表せない。

3

次の状況に合うように、空所に入る最も適切なものを選べ。

状況：加えること自体への努力ではなく、味を変える方法の効果を試したことに注目する。

Nina wanted a richer soup, so she tested one change.

She tried (　　) pepper to the soup.

A. to add

B. add

C. added

D. adding

解答・解説

正解：D

Pair 1

Nina wanted a richer soup, so she tested one change. She tried adding pepper to the soup.

ニナはもっと味わいのあるスープにしたかったので、一つの変更を試した。彼女はスープにコショウを加えてみた。

判断のポイント

tested one change は「一つの変更を試した」という意味だ。

ニナはスープの味を改善する方法を試している。コショウを加えること自体が難しいのではなく、味を変えるための方法として加えてみた場面なので、try doing が適切だ。

A. to add：try to add は「加えようと努力した」という意味になる。方法の効果を試すという、この文脈の焦点とは異なる。

B. add：try の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

C. added：過去形・過去分詞の added をそのまま try の後ろに置いても、この意味を表せない。

D. adding：正しい。コショウを加える方法を実際に試したことを表す。

なお、コショウを加えたことで味が改善したかどうかは、この文だけでは分からない。

©ミライコーチング

7. 演習問題

各問の状況を読み、空所に入る最も適切なものを A〜D から一つ選べ。

1

We were walking beside the lake. A bird appeared.
We stopped (　　) a picture of it.
A. taking
B. to take
C. take
D. taken

2

Dad decided never to use the old fan again.
Dad finally stopped (　　) it.
A. using
B. to use
C. use
D. used

3

Lena was reading when the doorbell first rang.
She stopped (　　) the front door.
A. answering
B. answer
C. answered
D. to answer

4

I sent the email yesterday. I can picture pressing Send.
I clearly remember (　　) the email.
A. to send
B. send
C. sending
D. sent

©ミライコーチング

5

状況：以前持っていった経験ではなく、これから必要な行為を思い出して実行した場面。

Emi recalled the teacher's request just before leaving home.

Emi remembered (　　) her notebook to class.

A. bringing

B. to bring

C. bring

D. brought

6

My lunch was still on the kitchen table after I arrived at school.

I forgot (　　) it to school.

A. taking

B. take

C. took

D. to take

7

状況：昨年のその会合で実際に会った出来事について、現在の記憶を述べている。

Mio met the teacher last year but has no memory of it.

She forgot (　　) him at the meeting.

A. meeting

B. to meet

C. meet

D. met

©ミライコーチング

8

状況：移動させること自体への努力ではなく、配置を変えたときの効果を試したことに注目する。

The desk was light. I tested a new layout for more sunlight.

I tried (　　) it closer to the window.

A. move

B. to move

C. moving

D. moved

9

状況：ふたを開ける方法を比較したのではなく、開けようと懸命に努力した場面。

Kai struggled to open a very tight jar.

Kai tried (　　) it with both hands.

A. to open

B. opening

C. open

D. opened

10

状況：加えること自体への努力ではなく、味を変える方法の効果を試したことに注目する。

Ben wanted better flavor, so he tested a change.

He tried (　　) herbs to the dough.

語注：herbs「ハーブ」、dough「パンなどの生地」

A. to add

B. adding

C. add

D. added

演習問題の解答・解説

1

正解：B

Pair 1

We were walking beside the lake. A bird appeared. We stopped to take a picture of it.

私たちは湖のそばを歩いていた。鳥が現れた。私たちはその鳥の写真を撮るために立ち止まった。
鳥が現れたため、写真を撮ろうとして歩くのを中断した場面だ。写真を撮ることは中断した目的なので、stop to do を使う。

A. taking：stop taking は「写真を撮るのをやめる」という意味になる。鳥が現れたので写真を撮ろうとした状況に合わない。

B. to take：正しい。写真を撮る目的で歩行を中断したことを表す。

C. take：stop の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. taken：過去分詞の taken を直接置いても、写真を撮る目的を表せない。

2

正解：A

Pair 1

Dad decided never to use the old fan again. Dad finally stopped using it.

父はその古い扇風機を二度と使わないことに決めた。父はついにそれを使うのをやめた。
never to use the old fan again から、今後はその扇風機を使わないと決めたことが分かる。やめた動作は「扇風機を使うこと」なので、stop doing が適切だ。

A. using：正しい。扇風機を使うことをやめたという意味になる。

B. to use：stop to use は「使うために別の活動を中断する」という意味になる。二度と使わないと決めた状況に合わない。

C. use：stop の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. used：過去形・過去分詞の used をそのまま stop の後ろに置いても、この意味を表せない。

3

正解：D

Pair 1

Lena was reading when the doorbell first rang. She stopped to answer the front door.

玄関の呼び鈴が最初に鳴ったとき、レナは読書をしていた。彼女は玄関に出るために読書を中断した。
レナがしていたのは読書だ。呼び鈴が鳴ったため、玄関に出ようとして読書を中断した場面なので、stop to do を使う。

A. answering：stop answering は「玄関に出るのをやめる」という意味になる。初めて呼び鈴が鳴り、読書を中断した状況に合わない。

B. answer：この意味の stop の直後に動詞の原形を置くことはできない。

C. answered：過去形の answered を直接置いても、中断する目的を表せない。

D. to answer：正しい。玄関に出るために、それまでの読書を中断したことを表す。

4

正解：C

Pair 1

I sent the email yesterday. I can picture pressing Send. I clearly remember sending the email.

私は昨日、そのメールを送った。送信ボタンを押した場面を今でも思い浮かべられる。私はそのメールを送ったことをはっきり覚えている。
昨日メールを送ったという事実があり、そのときの場面を思い出せている。

すでに行ったことの記憶を表すため、remember doing を使う。

A. to send：remember to send は「忘れずに送る」という意味だ。すでに送った行為を覚えているという文脈の焦点とは異なる。

B. send：remember の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

C. sending：正しい。過去にメールを送ったことを覚えているという意味になる。

D. sent：過去形・過去分詞の sent を直接置いても、「送ったことを覚えている」という意味にはならない。

©ミライコーチング

5

正解：B

Pair 1

Emi recalled the teacher's request just before leaving home. Emi remembered to bring her notebook to class.

エミは家を出る直前に先生の頼み事を思い出した。エミは忘れずにノートを授業へ持っていった。
recalled the teacher's request は「先生の頼み事を思い出した」という意味だ。

家を出る前に必要な行為を思い出し、ノートを持っていったことを表すため、remember to do が適切だ。

A. bringing：remember bringing は「持っていったことを覚えている」という意味になる。出発前に頼み事を思い出し、実行するという流れに合わない。

B. to bring：正しい。ノートを持っていく必要があることを忘れず、実行したという意味になる。

C. bring：remember の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. brought：過去形・過去分詞の brought を直接置いても、この意味を表せない。

6

正解：D

Pair 1

My lunch was still on the kitchen table after I arrived at school. I forgot to take it to school.

私が学校に着いた後も、昼食は家の台所のテーブルに置かれたままだった。私は昼食を学校に持っていくのを忘れた。
学校に着いた後も昼食が家に残っていたので、持っていくという行為が実行されなかったことが分かる。

必要な行為を忘れて実行しなかったため、forget to do を使う。

A. taking：forget taking は「持っていったことを忘れる」という意味だ。実際には昼食を家に置いてきたため、文脈に合わない。

B. take：forget の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

C. took：過去形の took を直接置いても、持っていくのを忘れたという意味を表せない。

D. to take：正しい。昼食を学校に持っていくことを忘れ、実行しなかったと表す。

7

正解：A

Pair 1

Mio met the teacher last year but has no memory of it. She forgot meeting him at the meeting.

ミオは昨年その先生に会ったが、そのことを覚えていない。彼女は会合で先生に会ったことを忘れてしまった。

met the teacher last year から、先生に会ったという出来事が実際にあったことが分かる。

しかし、has no memory of it とあるため、その経験の記憶がない。したがって forget doing を選ぶ。

A. meeting：正しい。実際に会ったことを忘れているという意味になる。

B. to meet：forget to meet は「会うのを忘れ、会わなかった」という意味になる。昨年すでに会っているという事実と合わない。

C. meet：forget の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. met：過去形・過去分詞の met を直接置いても、「会ったことを忘れる」という意味を表せない。

8

正解：C

Pair 1

The desk was light. I tested a new layout for more sunlight. I tried moving it closer to the window.

その机は軽かった。私は机にもっと日光が当たるように、新しい配置を試した。私は机を窓にもっと近づけてみた。

tested a new layout は「新しい配置を試した」という意味だ。

机の移動が難しくて苦労したのではなく、机にもっと日光が当たるように配置を変える方法を実際に試した場面なので、try doing が適切だ。

A. move：try の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

B. to move：try to move は「移動させようと努力する」という意味になる。配置変更による効果を試すという、この文脈の焦点とは異なる。

C. moving：正しい。机を窓の近くに移すことを一つの方法として試したと表す。

D. moved：過去形・過去分詞の moved を直接置いても、この意味を表せない。

なお、実際に机を移したことと、机に期待どおり日光が当たるようになったことは別だ。この文は、配置変更の効果までは保証していない。

9

正解：A

Pair 1

Kai struggled to open a very tight jar. Kai tried to open it with both hands.

カイはふたがとても固い瓶を開けようと苦労した。カイは両手でそれを開けようとした。
struggled to open は「開けようと苦労した」という意味だ。

この問題では、開け方を方法として試すことではなく、瓶を開けるという目的を達成しようと努力したことを表す。そのため、try to do が最も適切だ。

A. to open：正しい。瓶を開けようと努力したことを表す。

B. opening：try opening は「開けてみる」という意味で、開ける行為を方法として試すことに焦点がある。文法的には使える形だが、指定された「開けようと懸命に努力した」という意味を表すには A の方が適切だ。

C. open：try の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. opened：過去形・過去分詞の opened を直接置いても、この意味を表せない。

try to open だけでは、瓶を開けられたかどうかは決まらない。ここでは、成功・失敗ではなく、努力した行為に注目することが判断の決め手だ。

10

正解：B

Pair 1

Ben wanted better flavor, so he tested a change. He tried adding herbs to the dough.

ベンはもっとおいしくしたかったので、一つの変更を試した。彼は生地にハーブを加えてみた。
herbs は「ハーブ」、dough は「パンなどの生地」という意味だ。

Ben は味を改善するために、材料を変える方法を試している。ハーブを加える行為を方法として実際に試したことを表すため、try doing を選ぶ。

A. to add：try to add は「加えようと努力する」という意味になる。加えること自体の達成ではなく、味を変える方法の試行に注目した文脈には合わない。

B. adding：正しい。ハーブを加える方法を実際に試したことを表す。

C. add：try の後ろに、この意味で動詞の原形を直接置くことはできない。

D. added：過去形・過去分詞の added を直接置いても、この意味を表せない。

この文から分かるのは、ハーブを加える方法を試したことまでだ。実際に味が良くなったかどうかは示されていない。